

第35回 通常総会議案

令和7年5月30日



一般社団法人ダム工学会

— 目 次 —

議案 1	令和 6 年度事業報告	1
議案 2	令和 6 年度収支決算報告	1 7
議案 3	令和 6 年度会計監査報告	1 9
議案 4	理事選任（案）	2 0
議案 5	監事選任（案）	2 1
報告 1	令和 7 年度事業計画	2 2
報告 2	令和 7 年度収支予算	2 5
報告 3	新任役員等の紹介	2 7
報告 4	評議委員の紹介	2 8
	令和 6 年度ダム工学会賞受賞者	2 9

令和6年度 事業報告

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

令和6年度は、事業計画について必要な見直しを行いつつ、会員各位の協力のもとに、広報活動、学術講演会、研究発表会、講習会、各地区現場見学会、ダムなんでも相談室、with Dam★Night 2024、ダム工学会賞の選定と表彰等について、WEB会議システムを活用し実施した。論文投稿の活性化など、会誌「ダム工学」の内容充実に向けて、編集委員会など関係委員会が連携して学会活動に取り組んだ。一般の方がダムに関する情報を容易に得られるようダム工学会ホームページを運用した。

調査研究委員会では、各研究部会の下、研究活動を行った。交流研究事業3テーマを継続実施した。また、大規模洪水が発生した岩手県滝ダム及び下流河川について現地調査、ダム管理者及び行政担当者へヒアリングを実施した。

会員数は、令和6年度末現在、正会員・シニア会員は625名、学生会員は87名、賛助会員は52社となった。令和5年度末に比べて、正会員・シニア会員は27名の減少、学生会員は8名の増加、賛助会員は同数となっている。

各事業の実施については、各委員会、研究部会により安全で適切に行われた。また、会員各位の積極的な活動に支えられた。

1. 委員会等活動報告

(1) 通常総会

令和6年5月に通常総会（WEB開催）を開催し、令和5年度事業報告及び収支決算、理事選任等について承認を得るとともに、令和6年度事業計画及び収支予算等について報告を行った。

○ 第34回 通常総会（WEB開催）

開催日： 令和6年5月16日

場所： 星陵会館 2Fホール

委任者数： 399名

議題： 令和5年度事業報告及び収支決算、会計監査報告
理事選任、監事選任

報告： 令和6年度事業計画及び収支予算

新任役員等の紹介

評議委員の紹介

令和5年度ダム工学会賞受賞者

(2) 理事会

以下の通り理事会を開催した。

○ 第90回 理事会

開催日： 令和6年4月25日

場所： (一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）

議題： 第34回通常総会議案（案）について

会員状況

ダム工学会の当面の主な予定

第34回通常総会、表彰式及び特別講演会（案）

第34回通常総会、表彰式及び特別講演会について（第2報案）

- 第91回 理事会
 開催日： 令和6年5月16日
 場所： (一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
 議題： 会長・副会長の選出について
 顧問の選出について
 表彰委員会委員の選出について
 選考委員会委員の選出について
 理事の委員会委員委嘱について

- 第92回 理事会
 開催日： 令和7年3月13日
 場所： (一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
 議題： 令和7年度事業計画（案）について
 令和7年度収支予算（案）について
 報告： 令和6年度事業執行状況の報告
 会員数の推移、ダム工学会通常総会までの主な予定
 会誌「ダム工学」の内容充実に向けた取り組み状況
 今後の学会運営に関するフォローアップについて

(3) 評議委員会

以下の通り評議委員会を開催した。

- 第45回 評議委員会
 開催日： 令和6年4月25日
 場所： (一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
 議題： 令和6年度 理事推薦（案）について
 令和6年度 監事推薦（案）について
 令和6年度 評議委員（案）について
 第34回通常総会議案（案）について
 ダム工学会の当面の主な予定
 第34回通常総会、表彰式及び特別講演会（案）
 第34回通常総会、表彰式及び特別講演会について（第2報案）

(4) 委員会等活動

事業活動を推進するため、企画運営委員会及び各小委員会、編集委員会、調査研究委員会、ダム工学会賞の関係委員会等を以下の通り開催した。

1) 企画運営委員会

- 第96回 企画運営委員会
 開催日： 令和6年4月11日
 場所： (一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
 議題： 第34回通常総会議案（案）
 ダム工学会の当面の主な予定
 第34回通常総会、表彰式及び特別講演会（案）
 第34回通常総会、表彰式及び特別講演会について（第2報案）

- 第97回 企画運営委員会
 開催日： 令和7年2月12日
 場所： (一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
 議題： 令和6年度活動報告・令和7年度事業計画（案）について
 令和6年度事業執行状況について
 令和7年度収支予算（案）について
 ダム工学会通常総会までの主な予定
 今後の学会運営に関するフォローアップについて

○ 各小委員会の活動内容

- ① 総務小委員会
通常総会、理事会、評議委員会及び企画運営委員会の運営に関する企画・立案・実施、会員情報の管理、学会会計（会費の徴収を含む）の報告を行った。
- ② 学術研究発表会小委員会
特別講演会及び研究発表会の運営に関する企画・立案・実施を行った。
- ③ 講習会小委員会
講習会の運営に関する企画・立案・実施を行った。
- ④ 現地見学会小委員会
現地見学会開催に関する企画・立案・実施を行った。
- ⑤ 広報小委員会
学会及び学会行事の広報に関する企画・立案・実施を行った。また、ホームページの更新、メルマガ配信サービスにより情報提供を行った。
- ⑥ 活性化推進小委員会
ダム工学会の活性化推進方策の検討や、with Dam★Night 2024、各地区活動・ダムなんでも相談室・若手の会の運営に関する企画・立案・実施を行った。

2) 編集委員会

「ダム工学」発行のため、編集委員会を計4回開催した。

- 第138回 編集委員会
開催日： 令和6年4月10日
場所： (一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
議題： 学術部門の掲載予定について
一般部門の掲載予定について
- 第139回 編集委員会
開催日： 令和6年7月10日
場所： (一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
議題： 学術部門の掲載予定について
一般部門の掲載予定について
関係委員会等との連携による「ダム工学」掲載内容の充実について
- 第140回 編集委員会
開催日： 令和6年10月21日
場所： (一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
議題： 学術部門の掲載予定について
一般部門の掲載予定について
- 第141回 編集委員会
開催日： 令和7年1月17日
場所： (一財)ダム技術センター AB会議室（対面・WEB併用開催）
議題： 学術部門の掲載予定について
一般部門の掲載予定について

3) 調査研究委員会

○ 第1回 調査研究委員会

開催日： 令和6年7月9日

場所： (一財)ダム技術センター AB会議室 (対面・WEB併用開催)

議題： 事業報告内容の確認

(コンクリートダム、フィルダム、地質・基礎、維持管理、
施工、ダム技術史、ダム貯水池課題研究部会)
交流研究事業の状況報告

○ 第2回 調査研究委員会

開催日： 令和6年12月23日

場所： (一財)ダム技術センター AB会議室 (対面・WEB併用開催)

議題： 事業報告内容の確認

(コンクリートダム、フィルダム、地質・基礎、維持管理、
施工、ダム技術史、ダム貯水池課題研究部会)
交流研究事業の状況報告

4) ダム工学会賞の関係委員会等

○ 令和5年度 ダム工学会賞表彰式

開催日： 令和6年5月16日

場所： 星陵会館 2Fホール

受賞者： 功績賞、技術功績賞、技術賞、論文賞、技術開発賞

○ 令和6年度 選考委員会

開催日： 令和7年2月18日

場所： (一財)ダム技術センター AB会議室 (対面・WEB併用開催)

議題： 技術賞の授賞者選考

功績賞、技術功績賞、論文賞の各候補者選考

○ 令和6年度 表彰委員会

開催日： 令和7年3月5日

場所： (一財)ダム技術センター AB会議室 (対面・WEB併用開催)

議題： 優秀発表賞、技術賞の授賞者選考経過報告

功績賞、技術功績賞、論文賞の授賞者選考

5) 懇談会

○ 開催日： 令和7年3月12日

場所： (一財)ダム技術センター AB会議室 (対面・WEB併用開催)

議題： ダム工学分野で取り組むべき課題及び若手参加の為の方策に
ついて

ダム工学会への学術分野からの参加を促進する為の話題提
供について

提言とりまとめについて

参加者： 8名(工学分野の大学教授)

2. 行事活動

(1) 学術講演会

- 第34回 特別講演会
開 催 日： 令和6年5月16日 16:30～17:30
場 所： 星陵会館 2Fホール
聴 講 者 数： 77名
講 演： 九州大学 大学院 工学研究院環境社会部門
教授 矢野 真一郎 氏
『九州地方のダムにおける異常洪水時防災操作の
発生に対する気候変動影響評価』

(2) 研究発表会（講習会と合同開催）

- 令和6年度 研究発表会（WEB開催）
開 催 日： 令和6年11月21日 10:00～13:50
場 所： 東京カルチャーカルチャー（渋谷区）
聴 講 者 数： 最大103名アクセス
発表論文数： 7編
優秀発表賞： （優秀発表賞選考委員会での選考）
株式会社大林組 土木本部生産技術本部 ダム技術部
副部長 小俣 光弘 氏
『建設用3Dプリンターの
一般構造物プレキャスト部材への適用』

(3) 講習会（研究発表会と合同開催）

- 令和6年度 講習会（WEB開催）
開 催 日： 令和6年11月21日 13:50～15:45
場 所： 東京カルチャーカルチャー（渋谷区）
聴 講 者 数： 最大103名アクセス
講 演： 学校法人 城西大学 理事長 藤野 陽三 氏
『Preparing for the unexpected（想定外に備えよ）』
一般財団法人ダム技術センター 技師長 川崎 秀明 氏
『放流革命を秘めた新型サイホン洪水吐きの開発』



ダム工学会 角会長による開会挨拶



大林組 小俣氏による発表



角会長による賞状授与



優秀発表賞選考委員会 溝渕委員長による
講評・優秀発表賞の発表



学校法人 城西大学 理事長
藤野 陽三様による講義



一般財団法人 ダム技術センター 技師長
川崎 秀明様による講義

(4) 現地見学会 (CMED会、日本大ダム会議と共催)

- 第47回 ダム工学会現地見学会
開 催 日： 令和6年11月6日、7日
実 施 場 所： 佐久間ダム、船明ダム、佐久間発電所、浜松防潮堤
参加者数： 23名

(5) 活性化関連活動

- ダムなんでも相談室 (CMED会と共催)
開 催 日： 令和6年8月5日
実 施 場 所： 科学技術館 (東京都千代田区北の丸公園内)
概 要： 子供たちを対象として、ダムの役割と水の循環、再生可能なクリーンエネルギーや災害時の心構えについて、パネル展示やダムクイズを行った。
参加者数： 約200名
- 第9回 若手技術者のためのダム見学会
開 催 日： 令和6年9月18日、19日
実 施 場 所： 足羽川ダム、真名川ダム
参加者数： 15名
- 第11回 ダムを知るための若手技術者勉強会
開 催 日： 令和7年1月15日
実 施 場 所： (一財)ダム技術センターAB会議室 (WEB開催)
概 要： 「流域治水 (水災害からの防御) とダム事業について」と題して、昨年の見学会で訪れた「南摩ダム」について、国内でめずらしいCFRD型式を採用した南摩ダムのコンクリート表面遮水壁の施工方法を中心に取上げた。
また、「ダム事業をめぐる現状と今後の展望」と題した講演を実施した。
参加者数： 92名
- ダム好きオンライン会議室
開 催 日： 令和6年10月26日 (第1回)、令和7年2月15日 (第2回)
会 議 形 式： WEB会議 (第1回、2回)
概 要： “ダムプロフェッショナル”と“ダムファン”を繋ぎ、座学や雑談を通してダムに関する知識や興味、相互交流を深めることを目的としたWEB定期開催イベントを行った。
参加者数： 39名 (第1回)、30名 (第2回)
- ダムとダム周辺農業の関わり ―交流会―
開 催 日： 令和6年10月18日、19日
実 施 場 所： ダム見学「浅瀬石川ダム」
農業体験「青森県平川市」 (対面開催)
概 要： ①ダムの役割やダムの存在意義などを学生や地域住民に適切に情報発信すること、②農作業を手伝うことにより、高齢化や人手不足など労働力不足に悩む農業の課題を解消することを目的としイベントを行った。
参加者数： 16名 大学関係：8名 (引率2名、学生6名)、
農業従事者：2名、ダム工学会：5名、その他：1名

- 水道ダム交流講演会
 開催日： 令和7年1月16日
 実施場所： アルカス SASEBO 大会議室 A
 概要： 国内近代ダムの父、吉村長策先生に焦点を当てて、古い水道ダムの歴史と価値を語り合いながら、現在の課題、今後の展望について、講演とパネルディスカッションを行った。
 参加者数： 51名
- 国際大ダム会議第92回年次例会との連携
 開催日： 令和6年9月28日から10月3日
 実施場所： インド・ニューデリー
 概要： 国際シンポジウム/ポスターセッションのほかワークショップや地域会議など技術的内容の報告・情報共有の場に加え、シティツアー、若手技術者交流会、エクスカーショントといった交流行事が開催された。その中で、with Dam★Night「2024：最強の治水ダム」で行われた動画の一部を英語翻訳し、放映した。
 参加者数： 62名（日本からの参加者）
- with Dam★Night「2024：最強の治水ダム」
 開催日： 令和6年7月12日
 実施場所： (一財)ダム技術センター AB会議室（WEB開催）
 参加者数： 265名（結果をYouTubeにて動画配信）

wDN プログラム		
1.	開会の挨拶 ダム工学会会長 角哲也	18:00
2.	オープニング映像	
3.	洪水調節を実例でおさらい みつはし	
4.	ルール説明	
5.	前半戦 夜雀 vs 星野夕陽	
(1)	ゲート付きダム対決	
(2)	ゲートレスダム対決	
前半のコメント		
休息		
6.	後半戦 星野夕陽 vs 夜雀	
(3)	気になっている面白いダム対決	
(4)	ハイドログラフ対決	
(5)	最強いち推し治水ダム対決	
後半のコメント		
7.	ダムによる治水の歴史 エンジニアスカワサキ	
8.	結果発表とコメント	
9.	閉 会	20:30

○ with Dam★Night in 東北 2024 with 北海道

開催日： 令和6年11月28日 (WEB開催)

実施場所： 東北大学 工学研究科 人間・環境系教育研究棟 105

参加者数： 82名

wDN プログラム	
司会：加納 実／権神侑貴(ダム工学会活性化小委員会東北ブロック 実行委員)	開会挨拶
ダム工学会 会長 角 哲也	
夜嘶1：「大倉ダム～土木学会「選奨土木遺産」	認定で期待される「水の道ものがたり」～」
貞山・北上・東名運河研究会 東北土木遺産研究所 後藤 光亀	
夜嘶2：「大倉ダムの話」	宮城県仙台地方ダム総合事務所 大倉ダム管理事務所 所長 星 雅浩
休憩	
夜嘶3：「ダム管理者の日常がダムイベントに」	(株)こぶし建設 技術顧問 (元タ張川ダム総管理事務所 副所長・ダム遊び人) 時苗 英孝
夜嘶4：「建設の未来、ダムの未来」	東北大学大学院工学研究科 教授 久田 真
ダムLOVE唱和： (ダム工学会活性化小委員会東北ブロック 実行委員)	丹羽 尚人／加納 実／権神侑貴
閉会挨拶	

○ with Dam★Night in NARA (中部・近畿)

開催日： 令和6年11月29日 (WEB開催)

実施場所： 梅田Lateral (WEB開催)

参加者数： 約500名

wDN プログラム	
司会：夜雀様 (ダムマイスター(一般) 01-003)	
18:00～18:05：開会挨拶 (ダム工学会 角哲也 会長)	
18:05～18:30：みんな大好き アーチダム	夜雀 様 (ダムマイスター(一般) 01-003)
18:30～18:55：J-POWER のアーチダム (奈良県)	前田修一 様 (電源開発株式会社 水力発電部 西日本支店 支店長代理)
18:55～19:20：カッコいい Asahi Dam	佳 様 (ダムマイスター(一般) 03-046)
19:20～19:45：アーチダムの設計について	吉津洋一 様 (株式会社ニュージェック シニアアドバイザー)
19:45～20:00：閉会挨拶 (ダム工学会 石井秀紀 副会長)	

○ with Dam★Night in Kyushu 2024

開催日：令和6年11月16日

実施場所：TKPガーデンシティ

PREMIUM天神スカイホール・メインホールA

参加者数：86名（結果をYouTubeにて動画配信）

wDN プログラム	
15:00	【開会挨拶】（ダム工学会会長 角 哲也）
15:10～	【講演(1)】 ダムを「賢く」「増やして」「永く」使うために ～揚水発電利用の新しい展開～ (京都大学 特定教授 角 哲也)
	【講演(2)】 土木イノベーションズ with ダム (前田建設工業 川西 敦士)
	【講演(3)】 最高水位の盛り上がり！阿蘇立野ダム SWL イベント (みなみあそ観光局 小笹 和幸)
	【講演(4)】 松原ダム・下笠ダム建設と管理 50 年 (九州地方整備局 OB 甲斐 浩幸)
16:55～	【イベント(1)】 2024 九州ダムフォトコンテスト審査発表 (ダム工学会九州地区連絡会 wDN 実行委員会 委員長 泉 倫光)
17:15～	【イベント(2)】 2024 wDN in Kyushu 「ダム jackpot」 (FM 福岡 DJ & パーソナリティー Kaede) (ダム工学会九州地区連絡会 wDN 実行委員会 岩井、神田)
17:45～	【閉会挨拶】 (ダム工学会九州地区連絡会 会長 矢野 真一郎)

○ 北海道地区 現地見学会

開催日：令和6年9月19日、20日

実施場所：旧士幌線タウシュベツ川橋梁、新桂沢ダム、馬追橋

参加者数：73名

○ 東北地区 現地見学会

開催日：令和6年10月30日

実施場所：川内沢ダム、大倉ダム

参加者数：19名

○ 中部・近畿地区 現地見学会

開催日：令和6年9月18日

実施場所：足羽川ダム

参加者数：26名

○ 中国・四国地区 現地見学会

開催日：令和6年11月22日

実施場所：和食ダム

参加者数：25名

○ 九州地区 現地見学会

開催日：令和7年1月16日

実施場所：山の田ダム、転石ダム

参加者数：26名



「with Dam★Night 2024 :
最強の治水ダム」集合写真



with Dam ★ Night in NARA
中部・近畿地区 実施状況



若手の会 第9回 若手技術者のための
ダム見学会 実施状況（足羽川ダム）



北海道地区 現地見学会
実施状況（馬追橋）



中国・四国地区 現地見学会
実施状況（和食ダム）



with Dam ★ Night in Kyushu
九州地区 実施状況

3. 研究活動

(1) 研究部会

調査研究委員会の研究部会は、コンクリートダム、フィルダム、地質・基礎、維持管理、施工、ダム技術史、ダム貯水池課題研究部会の7部門から構成され、各研究部会において研究活動が行われた。

① コンクリートダム研究部会

研究テーマ「コンクリートダムとDX -何が変わるのか-」について、各編（全3編）技術コラムを推敲・校正して、会誌「ダム工学」への投稿を行った。新規研究テーマに関し 意見交換を行い、テーマの方向性を検討した。

- 第1回 コンクリートダム研究部会
開催日： 令和6年7月22日
会議形式： WEB会議
- 第2回 コンクリートダム研究部会
開催日： 令和7年2月20日
会議形式： WEB会議

② フィルダム研究部会

研究テーマ「大規模地震時のフィルダムの被災と復旧、及び耐震補強」について、会誌「ダム工学」へ投稿した。また、研究テーマ「フィルダムの再開発における設計・施工上の留意点」について、検討の進め方、資料入手方法、事例の整理、分析方法等について議論した。

- 第1回 フィルダム研究部会
開催日： 令和6年11月20日
会議形式： WEB会議

③ 地質・基礎研究部会

研究テーマ「ダム（堤体、貯水池周辺斜面）の維持管理・再開発における地質調査に関する研究」について、既往文献に基づく事例研究とそのとりまとめを行った。また、新規研究テーマについて検討を行った。

- 第1回 地質・基礎研究部会
開催日： 令和6年6月17日
会議形式： WEB対面併用会議
- 第2回 地質・基礎研究部会
開催日： 令和6年12月10日
会議形式： WEB対面併用会議

④ 維持管理研究部会

研究テーマ「持続可能なダム機能の確保に向けた新技術の活用」について、研究成果をとりまとめ、ICT等の新技術を活用した維持管理の将来像の提言を部会報告として、会誌「ダム工学」へ投稿した。

- 第1回 維持管理研究部会
開催日： 令和6年5月23日
会議形式： (一財)ダム技術センター対面会議
- 第2回 維持管理研究部会
開催日： 令和6年9月24日
会議形式： 建設技術研究所会議室 WEB 対面併用会議
- 現地視察会・意見交換会（北部ダム）
開催日： 令和6年12月4日～5日
会議形式： 北部ダム統合管理事務所対面会議
- 第3回 維持管理研究部会
開催日： 令和7年2月16日
会議形式： (一財)ダム技術センターWEB対面併用会議

⑤ 施工研究部会

大テーマ「働き方改革と熟練労働者の減少への対応」に関わる小テーマ「堤内構造物等のプレキャスト化の推進」について検討を行い、設計関係の建設コンサルタント(6社)と意見交換を行った。また、土木学会コンクリート標準示方書改訂作業部会と合同で国土交通省に働きかけを行い、プレキャスト部材の積極活用について本省から通達が出された。研究成果は、令和7年度中にとりまとめ、会誌「ダム工学」へ投稿する。

- 第1回 施工研究部会
開催日： 令和6年4月26日
- 第2回 施工研究部会
開催日： 令和6年6月6日
- 第3回 施工研究部会
開催日： 令和6年10月28日
- 第4回 施工研究部会
開催日： 令和7年1月31日

会議形式： (一財)ダム技術センターWEB 対面併用会議（第1～4回）

⑥ ダム技術史研究部会
休会中

⑦ ダム貯水池課題研究部会

研究テーマ「ダム広報と技術継承」についてアンケート調査を実施し、調査結果をとりまとめた。ダム広報について、各関係機関のWEBサイトを見て、ダムの効果説明・付加価値向上・次世代に向けて有効と判断される内容をピックアップし、その背景・目的・反応等を調査した。また、技術継承について、技術継承・人材育成の観点から、組織的な取組みの有無とその取組み概要について調査した。

- 第1回 ダム貯水池課題研究部会
開催日： 令和6年5月10日
会議形式： WEB会議
- 第2回 ダム貯水池課題研究部会
開催日： 令和6年9月3日
会議形式： WEB会議
- 第3回 ダム貯水池課題研究部会
開催日： 令和7年1月23日
会議形式： WEB会議

【ダム大規模洪水対応WG】

- 滝ダム及び下流河川について現地調査を行うとともに、岩手県と久慈市担当者へヒアリングを実施した。(8月)
- 洪水調節中のダム情報発信のあり方に関する改善提案などを進める活動方針を確認した。(1月)

(2) 交流研究事業

「ダムコンクリートの温度ひび割れに関する研究」、「CSGの品質向上に関する研究」、「異常洪水時防災操作や事前放流などへの気候変動影響に関する研究」の3テーマを継続した。

① ダムコンクリートの温度ひび割れに関する研究

研究者 法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科 溝渕 利明教授
研究フィールド 全国各地域から最近完成した28ダムを選定

② CSGの品質向上に関する研究

研究者 東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 石田 哲也教授
研究フィールド 成瀬ダム

③ 異常洪水時防災操作や事前放流などへの気候変動影響に関する研究

研究者 九州大学大学院工学研究院 環境社会部門 矢野 真一郎教授
研究フィールド 筑後川水系(松原ダム、下笠ダム、大山ダム、寺内ダム、江川ダム、小石原川ダムなど)等

4. 出版活動

○学会誌「ダム工学」

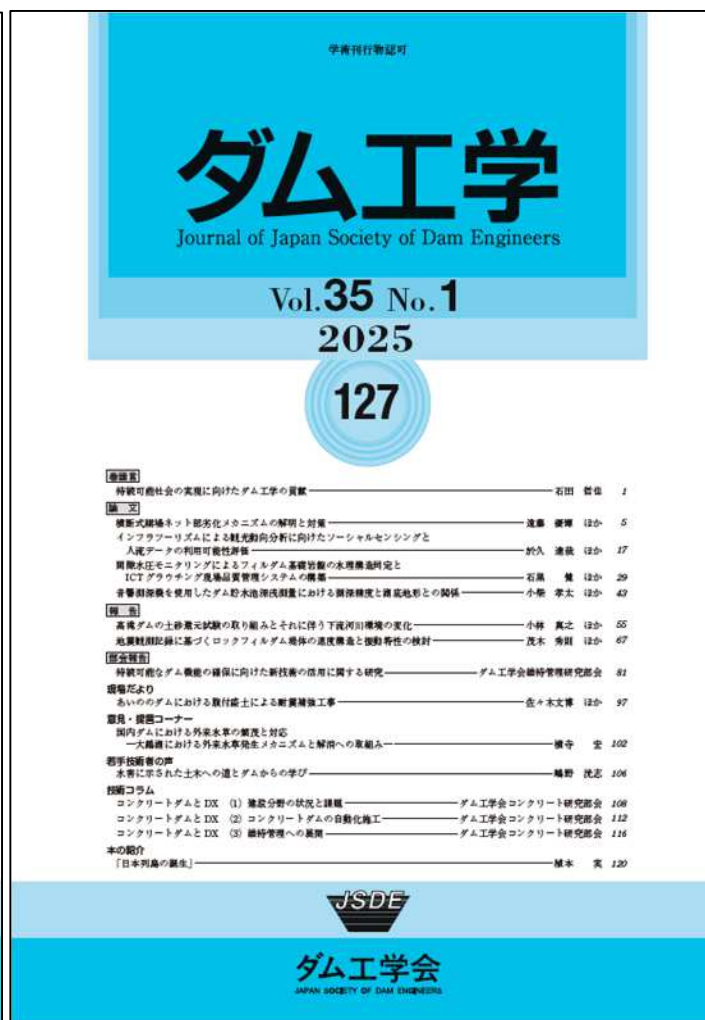
令和6年度は、2回の会誌発行を行った。社会のニーズを踏まえた技術「大規模地震時のフィルダムの被災と復旧、及び耐震補強」、「持続可能なダム技術の確保に向けた新技術の活用に関する研究」などを掲載した。

VOL.34 No.2 令和6年 9月15日発行

論 文：1件
報 告：1件
部会報告：1件

VOL.35 No.1 令和7年 3月15日発行

論 文：4件
報 告：2件
部会報告：1件



VOL. 34 No.2 令和6年 9月15日発行

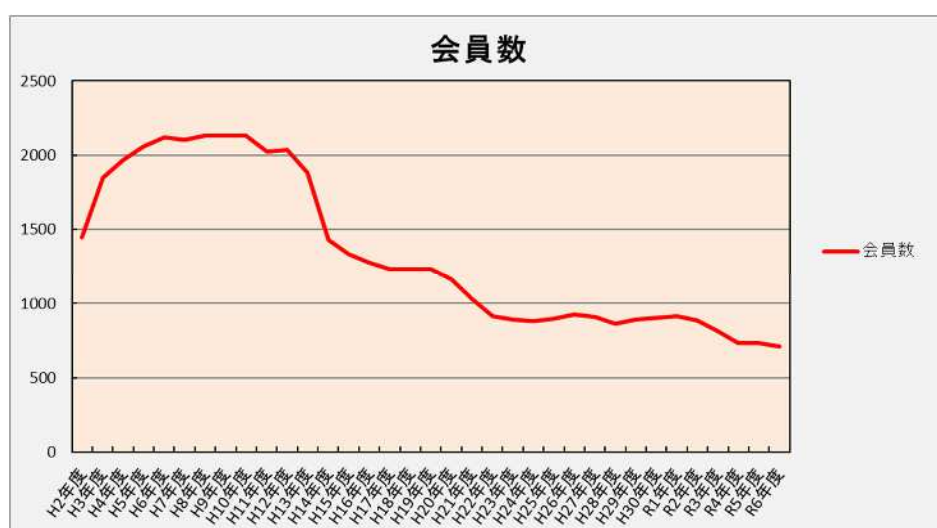
VOL. 35 No.1 令和7年 3月15日発行

5. 会員入会状況

(1) 会員数等の推移

※会員数は年度末現在の値

会員種別	令和5年度	令和6年度	備 考
正 会 員	544名	509名	35名減
シニア会員	108名	116名	8名増
学生会員	79名	87名	8名増
合 計	731名	712名	19名減
賛助会員	52社	52社	—



(2) 会員獲得等の主な取り組み

- ・若手の会や地域活動などを通じて、参加者に対して入会を呼びかけた。
- ・学生会員を対象に通常総会案内を通じて正会員への移行を呼びかけた。

令和6年度 収支決算報告

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

(単位：円)

収入の部

科目	予算額	決算額	差異	備考
1. 会費収入 (①～④計)	10,740,000	10,072,240	667,760	
①正会員会費	3,600,000	3,132,240	467,760	418口(手数料¥23,760差し引き)
②学生会員会費	0	0	0	
③シニア会員会費	540,000	340,000	200,000	3万/10口、4万/1口
④賛助会員会費	6,600,000	6,600,000	0	5万/132口
2. 事業収入 (①～⑦計)	1,947,000	1,372,000	575,000	
①総務小委員会収入	400,000	432,000	△ 32,000	第34回総会後の懇親会参加費
②研究発表会収入	0	0	0	
③現地見学会収入	1,167,000	624,000	543,000	現地見学会参加費(大ダム会議と共同開催)
④講習会収入	0	0	0	
⑤表彰関係収入	0	0	0	
⑥活性化推進収入	380,000	316,000	64,000	
若手の会	60,000	129,000	△ 69,000	現地見学会参加費
ダムなんでも相談室	0	0	0	
北海道ブロック	20,000	0	20,000	現地見学会参加費無
東北ブロック	50,000	33,000	17,000	現地見学会参加費
中部近畿ブロック	50,000	18,000	32,000	with Dam Night参加費
中国四国ブロック	20,000	18,000	2,000	現地見学会参加費
九州ブロック	180,000	118,000	62,000	with Dam Night参加費
with Dam Night 2023	0	0	0	
⑦調査研究収入	0	0	0	
コンクリートダム研究部会	0	0	0	
フィルダム研究部会	0	0	0	
地質・基礎研究部会	0	0	0	
維持管理研究部会	0	0	0	
施工研究部会	0	0	0	
ダム技術史研究部会	0	0	0	
ダム貯水池課題研究部会	0	0	0	
交流研究事業	0	0	0	
3. 刊行収入 (①～④計)	1,076,000	1,394,301	△ 318,301	
①会誌一般頒布収入	196,000	150,000	46,000	「ダム工学」購読費(2回¥6,000)
②会誌広告料	700,000	660,000	40,000	会誌広告料(会誌発行回数2回)
③抜刷別刷収入	150,000	517,500	△ 367,500	抜刷・カラー印刷(西松建設、新潟大学からの注文)
④その他収入	30,000	66,801	△ 36,801	JAC著作権使用料等分配金
4. 図書出版事業収入	30,000	9,300	20,700	フィルダムの変位計測に関するGPS利用マニュアル
5. 雑収入 (①～②計)	1,591,000	1,201,292	389,708	
①補助金収入	1,590,000	1,199,429	390,571	九州地方計画協会(¥799,429)、河川基金(¥300,000)、CMED会(¥100,000)
②受取利息	1,000	1,863	△ 863	銀行利息
小計 (1～5計)	15,384,000	14,049,133	1,334,867	
6. 前年度繰越金	※ 36,111,060	36,111,060	0	
合計 (小計+6)	51,495,060	50,160,193	1,334,867	

※ 前年度繰越額

支出の部

科目	予算額	決算額	差異	備考
1. 事業支出 (①～⑦計)	9,851,500	8,153,419	1,930,066	
①研究発表会支出	770,000	744,691	25,309	研究発表会・講習会同時開催(Web)、特別講演会講師代
②現地見学会支出	1,565,000	1,031,596	533,404	現地見学小委員会(大ダム会議と共同開催)
③講習会支出	162,000	86,240	75,760	研究発表会・講習会同時開催(Web)、講習会講師代
④表彰関係支出	950,000	857,170	92,830	表彰・選考委員会
⑤広報支出	120,000	165,550	△ 45,550	広報小委員会(HP管理費)
⑥活性化推進支出	5,482,500	4,728,157	754,343	活性化推進小委員会
若手の会	1,190,000	1,291,693	△ 101,693	現地見学会、若手技術者勉強会経費(Web)
ダムなんでも相談室	800,000	469,190	330,810	イベント規模縮小(大ダム会議と共同開催)
北海道ブロック	461,000	419,506	41,494	現地見学会、オンライン会議室経費
東北ブロック	650,000	541,391	108,609	with Dam Night 経費(Web)、現地見学会、農業体験経費
中部近畿ブロック	530,000	293,767	236,233	with Dam Night 経費(Web)、現地見学会経費
中国四国ブロック	250,000	131,046	118,954	現地見学会経費
九州ブロック	1,251,500	1,443,764	△ 192,264	with Dam Night 経費(Web)、現地見学会、水道ダム交流講演会経費
with Dam Night 2024	350,000	137,800	212,200	with Dam Night 経費(Web)
⑦調査研究支出	802,000	540,015	261,985	
コンクリートダム研究部会	1,000	770	230	残高証明発行手数料
フィルダム研究部会	0	0	0	
地質・基礎研究部会	20,000	880	19,120	残高証明発行手数料
維持管理研究部会	60,000	49,470	10,530	現地調査
施工研究部会	0	0	0	
ダム技術史研究部会	1,000	880	120	残高証明発行手数料
ダム貯水池課題研究部会	20,000	0	20,000	
交流研究事業	700,000	488,015	211,985	既存3テーマ
2. 刊行支出	3,300,000	4,040,698	△ 740,698	
①会誌作成費	3,300,000	4,040,698	△ 740,698	発送料・抜刷別刷料含む
3. 図書出版事業支出	0	0	0	
4. 事務支出 (①～⑪計)	2,145,000	2,123,149	21,851	
①会場費	570,000	603,493	△ 33,493	第34回総会・特別講演会・表彰式等経費
②会議費	800,000	848,263	△ 48,263	総会後の懇親会、懇談会
③印刷製本費	30,000	11,420	18,580	第34回総会
④諸謝金	100,000	79,000	21,000	ダム工学 巻頭言・査読料
⑤消耗品費	0	0	0	
⑥通信費	100,000	160,933	△ 60,933	会費請求書送付等
⑦支払手数料	150,000	59,560	90,440	振込手数料等
⑧旅費交通費	0	0	0	
⑨コンサルタント料	200,000	198,000	2,000	会計顧問報酬・登記簿本手続き代行手数料
⑩雑費	150,000	132,465	17,535	ダム日本購読料、日本工学会会費、防災学術連携体会費等
⑪源泉徴収費	45,000	30,015	14,985	諸謝金に対する源泉徴収税
5. 予備費支出	100,000	0	100,000	
小計 (1～5計)	15,396,500	14,317,266	1,079,234	
6. 繰越金	36,098,560	35,842,927	255,633	
合計 (小計+6)	51,495,060	50,160,193	1,334,867	

注1 14,049,133 - 14,317,266 = -268,133
注2 35,842,927(R7年度への繰越金)


令和 6 年度 会計監査報告

私は、ダム工学会の令和 6 年度収支決算報告についての監査を行った結果、収支決算報告書は適正であることを認めましたので、ここに報告いたします。

令和 7 年 4 月 17 日

ダム工学会

監事

氏名 光 形 政 和 

令和 6 年度 会計監査報告

私は、ダム工学会の令和 6 年度収支決算報告についての監査を行った結果、収支決算報告書は適正であることを認めましたので、ここに報告いたします。

令和 7 年 4 月 17 日

ダム工学会

監事

氏名 佐 野 正 幸 

理 事 選 任（案）

定款第22条に基づき、令和7年4月24日の第46回評議委員会において、下記の方々が理事に推薦された。

理 事

角 哲也	京都大学防災研究所 水資源環境研究センター 産学共同研究部門 ダム再生・流砂環境再生技術 研究領域 特定教授
溝渕 利明	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 教授
乗京 正弘	飛島建設株式会社 取締役会長
植本 実	日本工営株式会社 執行役員 エグゼクティブエンジニア
山口 嘉一	一般財団法人ダム技術センター 理事
村上 章	京都大学 大学院総合生存学館 教授・学館長
富田 晋司	独立行政法人水資源機構 副理事長
足達 謙二	独立行政法人水資源機構 理事
[新任] 中込 淳	一般財団法人水源地環境センター 審議役
[新任] 梅澤 孝行	関西電力株式会社 再生可能エネルギー事業本部 副事業本部長
藤井 誠	中部電力株式会社 再生可能エネルギーカンパニー 水力事業部長
内藤 明	株式会社大林組 土木本部生産技術本部 統括部長
黒木 博	大成建設株式会社 土木本部土木技術部ダム技術室 専任部長
[新任] 奈須野 恭伸	鹿島建設株式会社 土木管理本部プロジェクト推進部 プロジェクト推進部長
藤田 司	株式会社安藤・間 土木事業本部 土木設計部 フェロー
小林 裕	株式会社建設技術研究所 東京本社 ダム部 顧問
[新任] 三浦 義典	八千代エンジニアリング株式会社 事業統括本部 国内事業部 副事業部長（兼）水工部 部長
[新任] 井根 健	株式会社ニュージェック 執行役員 技術本部長代理
鎌屋 明	カナデビア株式会社 社会インフラ事業本部 顧問
青川 満	株式会社 I H I インフラ建設 取締役 防災・水門事業部長
[退任] 石井 秀紀	株式会社ニュージェック シニアエキスパート
[退任] 道奥 康治	法政大学 名誉フェロー
[退任] 小平 卓	パシフィックコンサルタンツ株式会社 理事 技術顧問
[退任] 多田 隆司	関西電力株式会社 執行役常務
[退任] 林 健二	鹿島建設株式会社 土木管理本部 統括技師長
[退任] 高橋 努	八千代エンジニアリング株式会社 代表取締役社長執行役員

監 事 選 任 (案)

定款第22条に基づき、令和7年4月24日の第46回評議委員会において、下記の方々が監事に推薦された。

監 事

[新任] 佐々木 淑充 一般財団法人日本ダム協会 専務理事

[新任] 田畑 宏司 電源開発株式会社 土木建築部長

[退任] 光成 政和 東日本建設業保証株式会社 理事

[退任] 佐野 正幸 電源開発株式会社 審議役

令和7年度 事業計画

(令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日)

令和6年度に引き続き、ダム工学研究の向上発展を図ることを目的とし、以下の事業を実施する。また、事業実施にあたっては、WEB会議システムの活用を十分に図る。

1. 委員会等活動

- 1) 通常総会
 - 2) 理事会
 - 3) 評議委員会
 - 4) 委員会
 - ・企画運営委員会
 - ・編集委員会
 - ・調査研究委員会
 - ・災害調査委員会
 - ・表彰委員会
 - ・選考委員会
 - ・技術開発賞公開審査会
 - ・優秀発表賞選考委員会
- の各委員会を開催する。

2. 行事活動

- | | | |
|--|----|--------------|
| 1) 特別講演会 | 1回 | |
| 2) 研究発表会 | 1回 | } 2)、3) 合同開催 |
| 3) 講習会 | 1回 | |
| 4) 現地見学会 | 1回 | |
| 5) ダム工学会賞 表彰式 | 1回 | |
| 6) 活性化関連活動 | | |
| ・地域活動(オンライン会議室、農業体験、水道ダム交流会など) | | |
| ・若手の会 | | |
| ・ダムなんでも相談室 | | |
| ・“with Dam★Night” 東京、北海道・東北、中部・近畿、九州で開催。 | | |

3. 出版・広報活動

1) 学会誌「ダム工学」

VOL.35 No.2	2025年 9月	発行予定 (2025年 9月15日号)
VOL.36 No.1	2026年 3月	発行予定 (2026年 3月15日号)

掲載内容を充実させるために、①研究発表会の発表論文、②技術賞や技術開発賞の受賞課題などのダム工学への掲載を進める。

2) ダム工学会ホームページの運用、メルマガ通信及び動画配信

ダム工学会ホームページやメルマガ通信、動画配信などを活用し、ダムなどに関する見学会等のイベント情報をはじめ、ダムの役割などの知識の提供を行う。

3) 戦略的・効果的な広報の実施

特別講演会、研究発表会、講習会、現地見学会(リアルやバーチャル方式の活用)及び活性化関連活動等を通じてダムに関する戦略的・効果的な広報を実施する。

4. 研究活動

1) ～7) の研究部会の活動と共に、交流研究事業に取り組む。

4. 1 研究部会 令和7年度活動内容

1) コンクリートダム研究部会

新規研究テーマに関し意見交換を行い、テーマの方向性を選定する。新規研究テーマに係る作業分担内容を調整し、検討準備として情報収集を行う。情報収集の結果を考慮し、テーマの検討、原稿素案の作成に取り組む。

2) フィルダム研究部会

研究テーマ「フィルダムの再開発における設計・施工上の留意点」について、引き続き事例収集と、収集した事例の整理と分析を進める。会誌「ダム工学」への投稿論文原稿案の作成を行う。

3) 地質・基礎研究部会

研究テーマ「ダム（堤体、貯水池周辺斜面）の維持管理・再開発における地質調査に関する研究」について討議し、会誌「ダム工学」へ報文(部会報告)としてとりまとめる。併せて、新規研究テーマの検討を進める。

4) 維持管理研究部会

新規研究テーマ「気候変動に伴う豪雨災害及び操作変更に伴うダム維持管理への影響調査（仮称）」について検討に着手する。気候変動による堆砂や流木流入への影響や事前放流等の実施によるダム維持管理への影響等について、実態調査等に基づいて検討を進める。

5) 施工研究部会

研究テーマ「働き方改革と熟練作業員減少への対応」に関わる小テーマ「堤内構造物等のプレキャスト化」について、建設コンサルタントとの協議を行うなど現場での積極的な適用を図るとともに、留意点や改善点を取りまとめ、会誌「ダム工学」へ部会報告を行う。併せて、新規の小テーマについて検討を進める。

6) ダム技術史研究部会

ダムの調査計画・設計・施工段階における技術的な分岐点となる事象に応じたトピックに着目したダム技術史のとりまとめを行うとともに、出版に向けた調整を実施する。

7) ダム貯水池課題研究部会

令和6年度に実施したアンケート調査結果を踏まえて、「ダム広報の現状と提言」を取りまとめて、会誌「ダム工学」へ投稿する。「ダム技術継承に関するダム工学会支援基本方針（案）」を取りまとめる。引き続き、ダム大規模洪水対応WGで、大規模洪水時におけるダム操作情報やダム効果の情報発信の改善方策に関して検討し、報道関係者や自治体関係者との意見交換を行うとともに、「大規模洪水時におけるダム効果の情報発信に関する提言（第2版）」として取りまとめる。

4. 2 交流研究事業

「ダムコンクリートの温度ひび割れに関する研究」を継続する。「CSGの品質向上に関する研究」、「異常洪水時防災操作や事前放流などへの気候変動影響に関する研究」の2テーマについて、会誌「ダム工学」へ投稿する。また、新規研究テーマについて検討する。

1) ダムコンクリートの温度ひび割れに関する研究

前年度に引き続き、解析モデル数を増やして解析を行い、温度ひび割れ発生確率曲線の作成を行っていく。

2) CSGの品質向上に関する研究

台形CSGダムに用いるCSGの品質向上について、材料特性および施工性の両者から検討を行う。

3) 異常洪水時防災操作や事前放流などへの気候変動影響に関する研究

気候変動がダムの異常洪水時防災操作や事前放流などへ与える影響を検討する。

令和7年度 収支予算

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

(単位：円)

収入の部

科目	予算額	前年度予算額	差異	備考
1. 会費収入 (①～④計)	10,800,000	10,740,000	60,000	
①正会員会費	3,500,000	3,600,000	△ 100,000	R3-R5年度決算額考慮
②学生会員会費	0	0	0	
③シニア会員会費	500,000	540,000	△ 40,000	R3-R5年度決算額考慮
④賛助会員会費	6,800,000	6,600,000	200,000	R3-R5年度決算額考慮
2. 事業収入 (①～⑦計)	2,005,000	1,947,000	58,000	
①総務小委員会収入	430,000	400,000	30,000	第35回総会後の懇親会参加費
②研究発表会収入	0	0	0	学術研究発表会(Web)参加費無
③現地見学会収入	1,215,000	1,167,000	48,000	現地見学会参加費 (大ダム会議と合同開催) 大ダム会議負担金除く
④講習会収入	0	0	0	講習会(Web)参加費無
⑤表彰関係収入	0	0	0	
⑥活性化推進収入	360,000	380,000	△ 20,000	活性化推進小委員会
若手の会	70,000	60,000	10,000	現地見学会参加費
ダムなんでも相談室	0	0	0	河川基金、CMED会補助金除く
北海道ブロック	20,000	20,000	0	現地見学会参加費
東北ブロック	30,000	50,000	△ 20,000	現地見学会参加費
中部近畿ブロック	0	50,000	△ 50,000	with Dam Night・現地見学会参加費無
中国四国ブロック	60,000	20,000	40,000	現地見学会参加費
九州ブロック	180,000	180,000	0	with Dam Night参加費 九州地方計画協会を除く
with Dam Night 2025	0	0	0	with Dam Night(web)
⑦調査研究収入	0	0	0	調査研究委員会
コンクリートダム研究部会	0	0	0	
フィルダム研究部会	0	0	0	
地質・基礎研究部会	0	0	0	
維持管理研究部会	0	0	0	
施工研究部会	0	0	0	
ダム技術史研究部会	0	0	0	
ダム貯水池課題研究部会	0	0	0	
交流研究事業	0	0	0	
3. 刊行収入等 (①～④計)	1,176,000	1,076,000	100,000	
①会誌一般頒布収入	196,000	196,000	0	購読会員会費(2回¥6,000)
②会誌広告料	700,000	700,000	0	会誌広告料(発行回数2回)
③抜刷別刷収入	200,000	150,000	50,000	会誌の抜刷・カラー印刷
④その他収入	80,000	30,000	50,000	JAC著作権使用料等分配金
4. 図書出版事業収入	30,000	30,000	0	フィルダムの変位計測に関するGPS利用マニュアル、ダムの科学
5. 雑収入 (①～②計)	1,591,000	1,591,000	0	
①補助金収入	1,590,000	1,590,000	0	大ダム会議負担金(¥50,000) CMED会(¥200,000) 九州地方計画協会(¥800,000) 河川基金(¥540,000)
②受取利息	1,000	1,000	0	銀行利息
小計(1～5計)	15,602,000	15,384,000	218,000	
6. 前年度繰越金	※35,842,927	36,111,060	△ 268,133	
合計(小計+6)	51,444,927	51,495,060	△ 50,133	

(単位：円)

支出の部

科目	予算額	前年度予算額	差異	備考
1. 事業支出 (①～⑦計)	10,259,000	9,851,500	407,500	
①研究発表会支出	1,000,000	770,000	230,000	研究発表会・講習会合同開催 (web)、特別講演会講師代
②現地見学会支出	1,500,000	1,565,000	△ 65,000	現地見学会小委員会 (大ダム会議と合同開催)
③講習会支出	210,000	162,000	48,000	研究発表会・講習会合同開催 (web)、講習会講師代
④表彰関係支出	900,000	950,000	△ 50,000	表彰・選考委員会、公開審査会経費
⑤広報支出	200,000	120,000	80,000	広報小委員会(HP管理費)
⑥活性化推進支出	5,665,000	5,482,500	182,500	活性化推進小委員会
若手の会	1,190,000	1,190,000	0	現地見学会、若手技術者勉強会 (Web)経費
ダムなんでも相談室	790,000	800,000	△ 10,000	大ダム会議と合同開催
北海道ブロック	430,000	461,000	△ 31,000	現地見学会経費、オンライン会議 室経費
東北ブロック	950,000	650,000	300,000	with Dam Night、現地見学会、農業体験経 費、水道ダム交流講演会
中部近畿ブロック	530,000	530,000	0	with Dam Night、現地見学会経費
中国四国ブロック	300,000	250,000	50,000	現地見学会経費
九州ブロック	1,300,000	1,251,500	48,500	with Dam Night、現地見学会経費
with Dam Night 2025	175,000	350,000	△ 175,000	with Dam Night 経費
⑦調査研究支出	784,000	802,000	△ 18,000	調査研究委員会
コンクリートダム研究部会	1,000	1,000	0	残高証明発行手数料
フィルダム研究部会	0	0	0	
地質・基礎研究部会	21,000	20,000	1,000	現地調査等 経費
維持管理研究部会	51,000	60,000	△ 9,000	現地調査等 経費
施工研究部会	0	0	0	
ダム技術史研究部会	1,000	1,000	0	残高証明発行手数料
ダム貯水池課題研究部会	10,000	20,000	△ 10,000	報告書作成費用等
交流研究事業	700,000	700,000	0	継続1テーマ 新規2テーマ (2カ年計画)
2. 刊行支出	3,300,000	3,300,000	0	
①会誌作成費	3,300,000	3,300,000	0	発送料・抜刷別刷料含む (会誌発行2回、委員会4回)
3. 図書出版事業支出	0	0	0	
4. 事務支出 (①～⑪計)	2,175,000	2,145,000	30,000	
①会場費	600,000	570,000	30,000	(第35回総会・表彰式・特別講演 会・理事会・懇親会)
②会議費	800,000	800,000	0	(第35回総会・表彰式・特別講演 会・理事会・懇親会)
③印刷製本費	30,000	30,000	0	第35回総会
④諸謝金	100,000	100,000	0	ダム工学 巻頭言・査読料
⑤消耗品費	0	0	0	
⑥通信費	100,000	100,000	0	会費請求書 送付等
⑦支払手数料	150,000	150,000	0	WEBバンク・ロ座振替手数料
⑧旅費交通費	0	0	0	
⑨コンサルタント料	200,000	200,000	0	会計顧問報酬 登記役員変更手続き代行料
⑩雑費	150,000	150,000	0	ダム日本購読料、日本工学会会費 防災学術連携体会費
⑪源泉徴収費	45,000	45,000	0	諸謝金に対する源泉徴収
5. 予備費支出	100,000	100,000	0	
小計 (1～5計)	15,834,000	15,396,500	437,500	
6. 繰越金	35,610,927	36,098,560	△ 487,633	
合計 (小計+6)	51,444,927	51,495,060	△ 50,133	

R7の予算収支 ¥15,602,000 - ¥15,834,000 = ¥ -232,000
R6の予算収支 ¥15,384,000 - ¥15,396,500 = ¥ -12,500

新 任 役 員 等 の 紹 介

定款第23条, 第40条に基づき、令和7年5月30日の第94回理事会において選出する。

評 議 委 員 の 紹 介

定款細則第6条に基づき、令和7年4月24日の第46回評議委員会において、下記の方々が評議委員に選出された。

評議委員

	石田 哲也	東京大学大学院工学系研究科副研究科長 社会基盤学専攻 教授
	矢野 真一郎	九州大学 工学研究院 環境社会部門 教授
	岸田 潔	京都大学 大学院工学研究科 都市社会工学専攻 教授
	岸 利治	東京大学 生産技術研究所 人間・社会系部門 教授
	藤澤 和謙	京都大学大学院 農学研究科 教授
	酒井 富雄	東京都水道局 建設部 施設設計課 課長
	板垣 修	国立研究開発法人土木研究所 河道保全研究グループ グループ長
[新任]	松尾 誠	独立行政法人水資源機構 ダム事業部長
	奥秋 芳一	一般財団法人水源地環境センター 企画部長
	恒川 明伸	東京電力ホールディングス株式会社 技術戦略ユニット土木・建築統括室 土木・建築エンジニアリングセンター 地圏土木技術グループ マネージャー
	佐藤 正俊	中部電力株式会社 電力技術研究所 土木グループ長
	山根 雄一	関西電力株式会社 再生可能エネルギー事業本部 水力部長
	西浦 和幸	飛島ホールディングス株式会社 執行役員 経営戦略総括本部長
	加瀬 俊久	清水建設株式会社 土木営業本部 上席エンジニア
	糠谷 勝彦	三井住友建設株式会社 土木本部 土木統括室 担当部長
	吉野 俊	前田建設工業株式会社 土木事業本部 営業第1部 副部長(第3グループ) 兼ダム担当部長
	高橋 正人	株式会社熊谷組 土木事業本部 土木技術統括部 ダム技術部長
	片岡 大到	佐藤工業株式会社 土木事業本部技術部 部長
[新任]	鈴木 伴征	八千代エンジニアリング株式会社 北日本支店 河川・水工部 部長
[新任]	赤松 利之	株式会社ニュージェック 技術本部 河川部門長
	鈴木 孝雄	日本工営株式会社 河川水資源事業部 ダム発電部 副技師長
	高塚 哲	株式会社建設技術研究所 東京本社 ダム部 部長
	立花 猛	株式会社エイト日本技術開発 国土インフラ部 河川・港湾グループ 技師長
	上出 耕三	株式会社丸島アクアシステム 技術本部 技術顧問
[退任]	三浦 義典	八千代エンジニアリング株式会社 事業統括本部 国内事業部 副事業部長 (兼)水工部 部長
[退任]	井根 健	株式会社ニュージェック 執行役員 技術本部長代理
[退任]	竜澤 宏昌	独立行政法人水資源機構 技師長

令和6年度 ダム工学会賞受賞者

1. 功績賞

功績賞は、技術賞と同等の業績または論文賞と同等の論文発表等の積み重ねによって、ダム事業の発展やダム工学の進歩に著しい貢献をなしたと認められた個人または団体、あるいはダム工学会の運営に寄与し、学会の声価を高め、その興隆に著しい貢献をなしたと認められた個人または団体に対して授与する。

1) 特別功績賞

ダム工学の進歩及びダム工学会の発展に特に著しい貢献

受賞者	所属
門松 武	日本振興株式会社 顧問

2) 功績賞

ダム工学の進歩及びダム工学会の発展に貢献

受賞者	所属
宮北 順一	元農林水産省地質官
甲村 謙友	(公社)日本河川協会 会長
大内 斉	ケミカルグラウト株式会社

2. 技術功績賞

技術功績賞は、ダムの建設・管理等の実務の積み重ねにより、ダム技術の進歩及び発展に著しい貢献をなしたと認められる個人に授与するものとする。

受賞者	所属
寺岡 敏男	大阪砕石エンジニアリング株式会社
牛尾 仁	株式会社セイア

3. 技術貢献賞

技術貢献賞は、ダムの建設・管理等の実務において、ダム工学の進歩、発展及びダム技術の普及、継承に著しい貢献をなしたと認められる活動を行った団体に授与するものとする。

受 賞 者	所 属
	(今年度は受賞団体なし)

4. 技術賞

技術賞は、ダムの計画、設計、施工、または維持管理等に関して、ダム技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた画期的な事業または業務を実施した個人または団体に対して授与する。

事 業 名 ・ 業 務 名	受 賞 者
幾春別川総合開発事業(新桂沢ダム堤体建設工事)	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 ・鹿島・岩田地崎・伊藤特定建設工事共同企業体 ・日本工営株式会社
厚真ダム復旧工事(直轄災害復旧事業「勇払東部地区」)	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省北海道開発局 室蘭開発建設部 胆振農業事務所 ・岩田地崎建設株式会社 ・株式会社三祐コンサルタンツ ・西田鉄工株式会社
千五沢ダム再開発事業	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県県中建設事務所 ・清水・青木あすなろ・あおい特定建設工事共同企業体 ・日本工営株式会社 ・一般財団法人 ダム技術センター
立野ダム建設事業	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省 九州地方整備局 ・西松・安藤ハザマ・青木あすなろ特定建設工事共同企業体 ・株式会社ニュージェック

5. 論文賞

論文賞は、ダム工学会が刊行する論文集「ダム工学」及び、これと同等の会誌にダム工学に関わる独創的な論文を発表し、ダム工学における学術、技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた本会会員である個人または本会会員を含む団体に対して授与する。

受付 番号	論 文 名	受 賞 者
2	地震観測記録を用いたダムピアの非線形解析モデル化に関する検証	松岡 賢樹 大坪 祐介 有光 剛 内田 諭 中西 泰之 中村 光
3	Research on adopting low friction rubber seals for high pressure gate	安井 孟 安田 吾郎 福島 憲明 俣野 敦夫 浅野 徹

6. 技術開発賞

技術開発賞は、ダムの調査、試験、設計、施工または維持管理等において、創意工夫に富む技術を開発実用化し、ダム技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた本会会員である個人または本会会員を含む団体に対して授与する。

技 術 開 発 件 名	受 賞 者
	(今年度は受賞なし)

7. 著作賞

著作賞は、ダム工学を体系化し、またはダム工学における新しい分野を集大成し、ダム工学、ダム技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた工学的な著作の著者、またはダム工学、ダム技術の意義あるいはダム技術者の活躍を広く世に紹介することに著しい貢献をなしたと認められた一般的な著作の著者に対して授与する。

著 作 名	受 賞 者
	(今年度は受賞なし)

令和 6 年度 ダム工学会技術賞 受賞ダム



新桂沢ダム



厚真ダム



千五沢ダム



立野ダム

幅広い分野の会員からなる一般社団法人ダム工学会は、工学の総合的な発展に貢献しています。



一般社団法人ダム工学会
Japan Society of Dam Engineers

事務局 〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7
URL. <http://www.jsde.jp/>